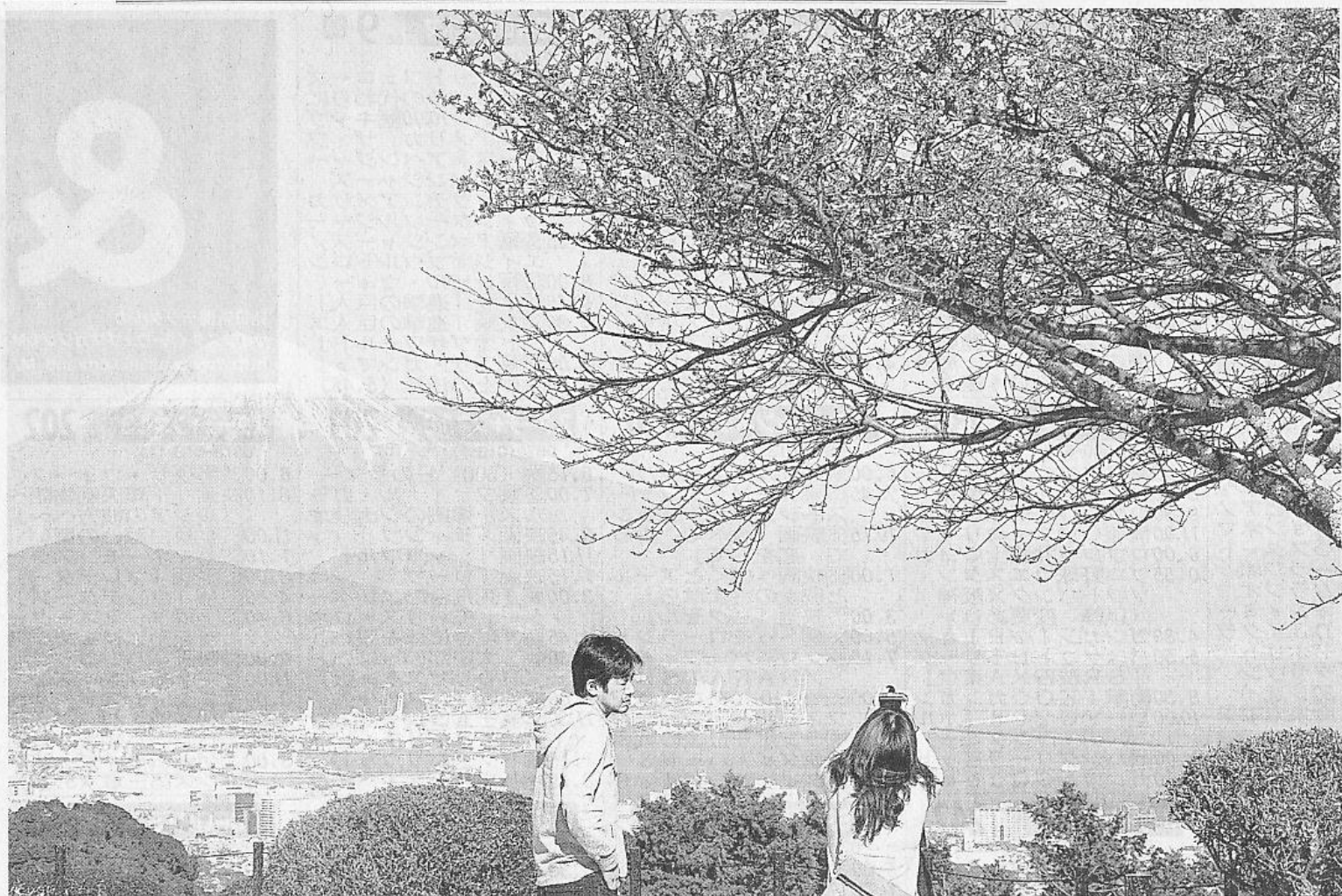


悠久の眺め、日本一

富士山は、どこから見るのが一番美しいか。答えはない。それぞれが、様々な場所から様々な心境の中で見る富士を、最も美しいと感じるからである。しかし、「あそこから見る富士山眺望ポイント」にしようという計画を、県と静岡市が共同して進めている。



その山頂周辺を、文字通り「日本一」の富士山眺望ポイントにしようという計画を、県と静岡市が共同して進めている。



桜の開花が間もない日本平＝静岡市、全日写連吉川正宏さん撮影

静岡市でこの事業を担当する同市公園整備課日本平公園建設室などによると、山頂部分の日本平公園(33.3ヘクタール)を6つのゾーンに分け、最も高くて見晴らしがよい場所を「観富の丘」ゾーンとする。そこに「展望台」と、現在ある電波管理塔をぐるりとまわる形で「回廊」(全長約190メートル)を造る計画だ。

日本平は1951年に県立自然公園に指定され、59年には国指定の名勝となった。古くから静岡県・市を代表する観光資源だったが、静岡市が政令指定都市になる前は旧清水市との境界線上にあり、政令指定都市になってからは県との調整などがあって、整備計画進捗にブレーキがかかった。しかし、富士山の世界遺産登録をきっかけに、県と市の足並みがそろい、「日本平を風景美術館」という理念を共有しながら、展望台を県、展望回廊は静岡市がそれぞれ担当して、来年春までに整備されることになった。

桜の開花が近い晴れた日に、「観富の丘」に立った。富士山、三保の松原、駿河湾。近くの久能山東照宮に眠る家康公も愛でた「天下の景観」が広がる。400年後の本格整備を「なんとも悠長な」と仰せられるかもしれないが、この悠久な眺めに、言葉もない。

(前静岡県監査委員・富永久雄)